

治療法ない低血圧 症状の軽減が主眼

Q 四十三歳、主婦。低血圧で午前中は頭が重く、足腰が冷えて元気がでません。夕方は足がむくみ、立ちくらみがしてすぐ横になりたくなります。高血圧ぎみの夫からは「なまけ病」と言われます。漢方によい治療はありますか。

タイプは空気がやや抜けたボールのように弱々しい。大事に使えば長持ちしそうだが、空気を少し詰めてボールをはずませないと日常生活にさしさわる。

A 高血圧は放置すると脳卒中や動脈硬化、心筋こうそくといった合併症につながるため、西洋医学ではきちんとした治療のガイドラインがある。その点、低血圧は診断基準に一応の目安はあるが、命に別条がないことから積極的な治療の対象にしないことが多い。

漢方には本来血圧の概念がないが、高血圧タイプの人と低血圧タイプの人がいると考える。総じて元気な高血圧タイプに比べると、低血圧

漢方では血圧の上昇を目的とする治療法はなく、つらい症状を根本的にとることを考える。結果として低血圧から解放される人もいれば、症状はとれても血圧は依然低いという人もいる。冷えや活力の低下を伴う新陳代謝低下型、胃下垂などを伴う無力体質型、むくみや立ちくらみ、頭重感などを伴う血行不良型などに分類・治療している。質問者は血行不良型のような当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）のような血行を良くする漢方薬がよい。薬用人参を含む処方もよく用いられる。